

1 本川内郷

50年前(1969.1.1):人口 810 人 世帯数 147

現在(2019.1.1) :人口 788 人 世帯数 303



長与ダム建設前の木場地区 昭和 54(1979) 年 3 月



長与ダム建設工事 昭和 57(1982) 年 6 月



長与ダム 令和元(2019) 年 5 月

調査に着手した昭和 48(1974) 年度から、13 年の歳月をかけて昭和 60(1985) 年 11 月に総貯水量 60 万トンの長与ダムが完成。写真はダム建設工事が始まる前。用地地権者の方々のご理解をいただき、住み慣れた住家や祖先伝来の貴重な田畠を身骨削る思いで譲っていただき、建設着工の運びとなった。



松ノ頭トンネル 昭和 36(1961) 年



松ノ頭トンネル 令和元(2019) 年 5 月



大越踏切 昭和 35(1960) 年頃

明治 31(1898) 年 11 月 27 日松ノ頭トンネル開通。この開通に伴い、長与駅から上り方面の営業が開始された。(下り方面の営業は明治 30(1897) 年 7 月 22 日)



本川内駅 昭和 40(1965)年



本川内駅 令和元(2019)年 5月

かつての本川内地区は交通の便が悪く、地元に駅をという声は地区民一同の切実な願いであった。駅の誘致運動の結果、本川内の人々の切なる請願が実を結び、昭和 16(1941)年に請願駅として認可。当時は戦時中で、工事資金・資材の調達に難儀したようであったが、本川内地区の人々の夜を日につぐ奉仕作業の結果、必要な資材を国鉄の要求する 3 日以内にという期限になんとか間に合わせることができ、地元住民の汗の結晶として、本川内駅ができた。正式に駅に昇格したのは昭和 27(1952)年 6 月 1 日。当時の駅舎は昭和 24(1949)年に落成したもの。

2 平木場郷

50年前(1969.1.1):人口 583人 世帯数 100

現在(2019.1.1) :人口 1,009人 世帯数 397



洗切小学校 昭和 40(1965)年



上長与地区公民館 令和元(2019)年5月

現在の上長与地区公民館の場所に洗切小学校があった。昭和 51(1976)年、洗切小学校は、長与ニュータウンの完成による児童急増と校舎老朽のため、現在の場所に移転した。

昭和 55(1980)年、上長与地区公民館が完成。



隠川内(上平) 昭和 36(1961)年頃



隠川内(上平) 令和元(2019)年 5月

平木場行バスの終点となっているところ。

3 三根郷

50年前(1969.1.1):人口 523人 世帯数 100

現在(2019.1.1) :人口 4,382人 世帯数 1,649



三根郷第2浄水場付近(住民提供) 昭和20~28(1945~1953)年頃



三根郷第2浄水場付近(住民提供) 平成30(2018)年9月

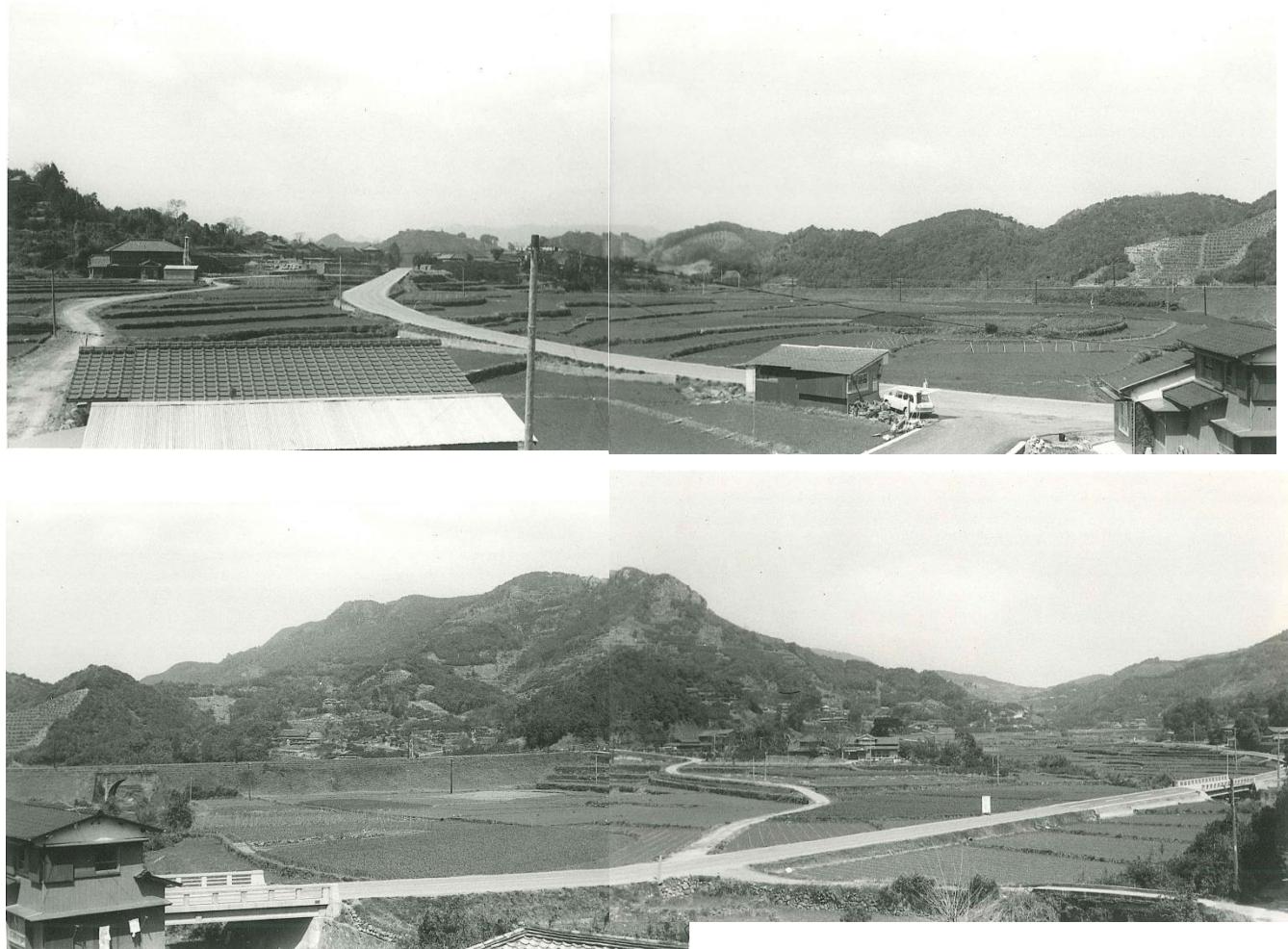
三根郷の第2浄水場から本川内駅方面を写した写真。稗ノ岳方面。第2浄水場は平成元(1989)年稼働。



三根郷(住民提供) 昭和 46(1971)年



三根郷 令和元(2019)年5月



三根郷(住民提供) 昭和 46(1971)年



三根郷 令和元(2019)年 5月

三根郷の山本理容院自宅屋根上よりパノラマ式に撮影をしたもの。昔の洗切小学校（現在の上長与公民館）から、長与ニュータウン造成前の山林、県道 33 号と JR の線路を隔て、緑ヶ丘団地造成前の山林、本川内方面へと続く。

平成 6(1994)年から平成 11(1999)年にかけて緑ヶ丘団地が造成された。



長与ニュータウン着工前 昭和 46(1971)年 4月



陶芸の館付近より望む長与ニュータウン方面 令和元(2019)年 5月

長与ニュータウン着工前。

昭和 46(1971)年頃は、高田、吉無田、三根地区を中心とした民間投資による大型団地がぞくぞくと造成され、長与は宅地造成ブーム状態になった。

これから三根の山林の伐採が行われ、55 ヘクタールの宅地造成が始まる。



長与ニュータウン起工式 昭和 47(1972)年



三根郷(住民提供) 昭和 41~42(1966~1967)年

陶芸の館付近より。背景の山々が、現在は長与ニュータウンと化している。



長与ニュータウン造成完了 昭和 49(1974)年

昭和 49(1974)年、計画戸数 1,340 戸の長与ニュータウンの造成が完了。

4 吉無田郷

50年前(1969.1.1):人口 1,747 人 世帯数 414

現在(2019.1.1) :人口 8,383 人 世帯数 3,387

まなび野

現在(2019.1.1):人口 2,575 人 世帯数 963



池山(住民提供) 昭和 38(1963)年



池山(住民提供) 昭和 38(1963)年



池山 令和元(2019)年 5月

1枚目の写真の手前の川は的場川（長与川に合流する少し手前の位置）、左上の山は御用山。右奥の方にうっすら見える山に、現在はヴューテラス長与北阳台の団地が立ち並ぶ。

2枚目の写真の真ん中の白い部分が道路で、それに沿う形で長与川が流れている。その先に線路があり、汽車が走っている。その奥にある山は、現在の中尾城公園（平成 6(1994)年 9 月にオープン）。左端中央部にある建物は交番（吉無田駐在所）、その先にあるのが長与駅。中央奥の山は法妙寺のある唾飲城跡の山。



井手本 昭和 47(1972)年 7月



井手本 令和元(2019)年 11月

正面の山は現在の中尾城公園

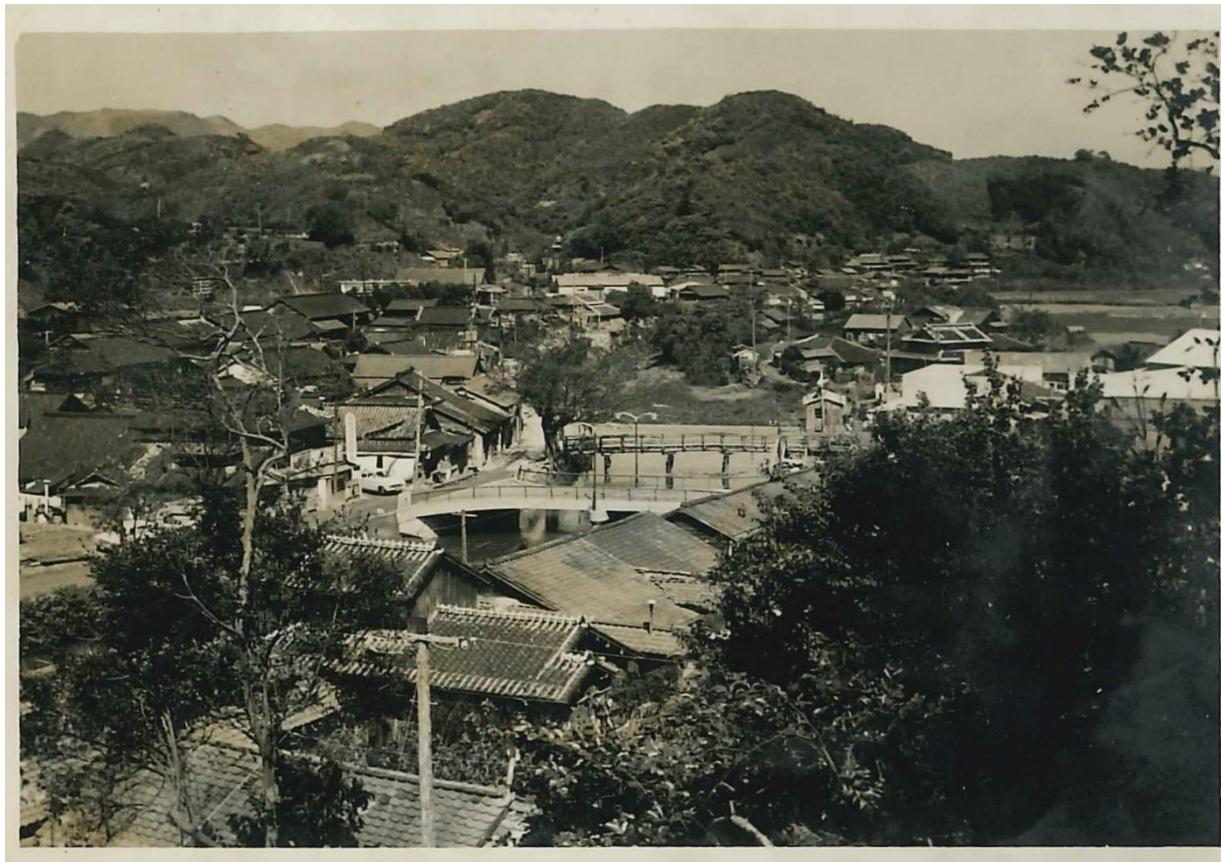


吉無田 昭和 34(1959)年



吉無田(住民提供) 令和元年(2019)年 6月

昭和 47(1972)年施行の長与東部地区画整理事業が行われるまで、辺りは田んぼが広がっていた。

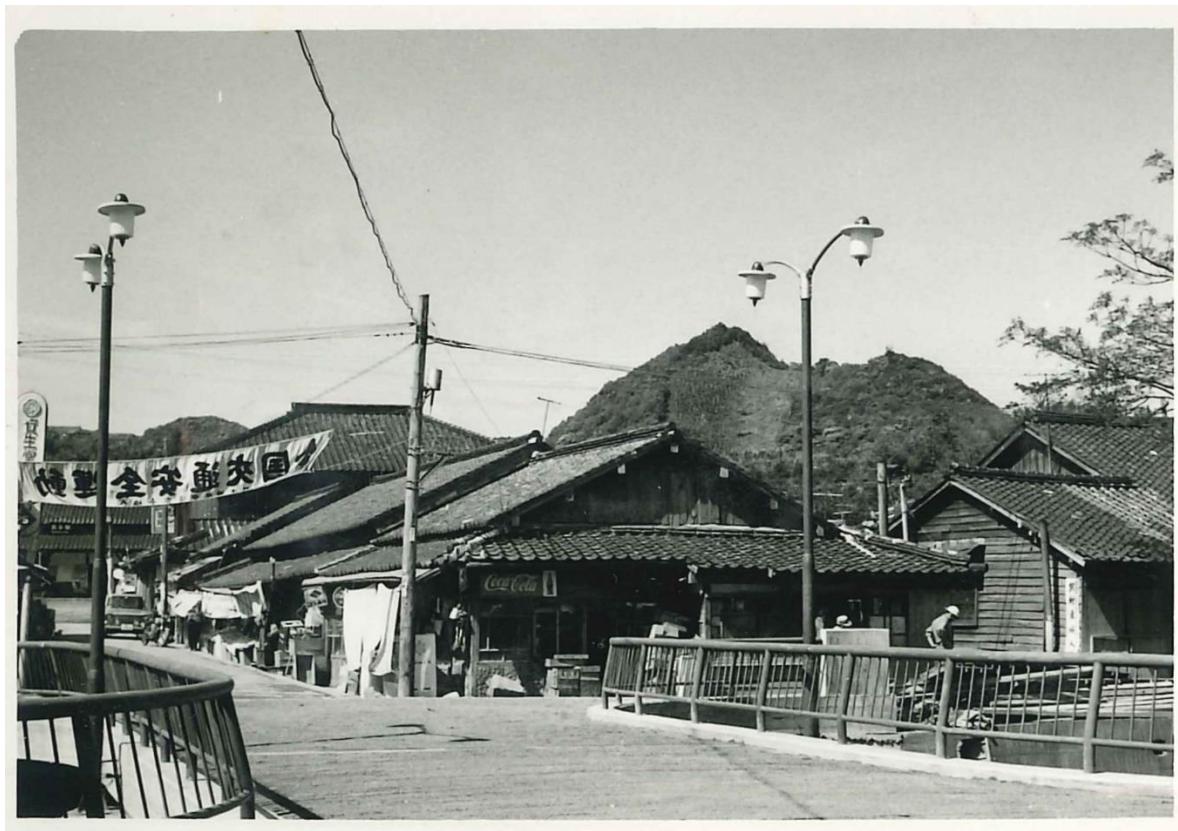


長与駅前橋 昭和 40(1965)年 5月



長与駅前付近 令和元(2019)年 5月

写真右上に見える水田地帯を、昭和47(1972)年度からの長与東部土地区画整理事業において、近代的都市の姿に一変させた。



長与駅前橋 昭和 40(1965)年



長与駅前橋 昭和 29(1954)年 3月



長与駅前橋 平成 30(2018)年

昭和 40(1965)年 5月、長い間不便であった駅前橋がようやく完成。取り付けられた 4 個のボンボリ蛍光灯が地元民の喜びを象徴した。

なお、このころ長崎市への編入問題が議会及び村民の間で慎重に議論されていたが、結局、合併後の税負担の高額化の問題や、中央重視的行政の懸念、また、農政の問題等から市への合併は見送られることになり、やがてこの問題は解消した。



長与駅前橋より 昭和 47 (1972) 年 7 月



長与駅前橋より 令和元 (2019) 年 5 月

駅前橋より長与ニュータウン方面



長与駅 昭和 40 (1965) 年



長与駅 平成 30 (2018) 年

明治 30(1897)年 7 月 22 日下り方面開業。明治 31(1898)年 11 月 27 日、松ノ頭トンネルの開通に伴って上り方面の営業も開始。

駅舎は平成 9(1997)年頃橋上化され、平成 11(1999)年、現在の駅前広場が完成した。



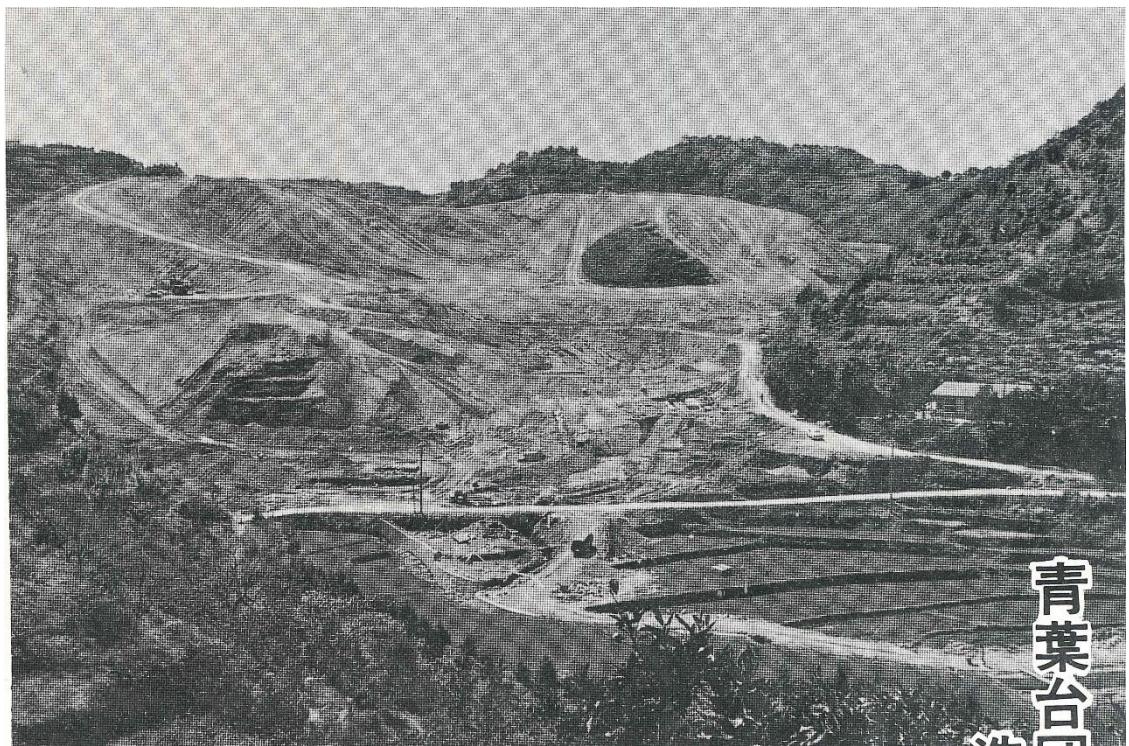
長与駅前にて汽車増発陳情のための署名活動 昭和 47 (1972) 年



長与駅ホーム 昭和 57 (1982) 年 10 月



長与駅舎改裝落成式 昭和 63 (1988) 年 3 月 3 日



青葉台造成 昭和 47(1972)年 3月



青葉台 昭和 50(1975)年代



青葉台 令和元(2019)年 5月

昭和 47(1972)年 1月より青葉台団地の造成工事が始まり、総面積約 12 ヘクタールに 343 戸の宅地造成が約 1 年間の工期で行われた。この団地を通って昭和町に至る幅員 9 メートルの町道拡幅工事も同時に進められた。

広報 ながよ

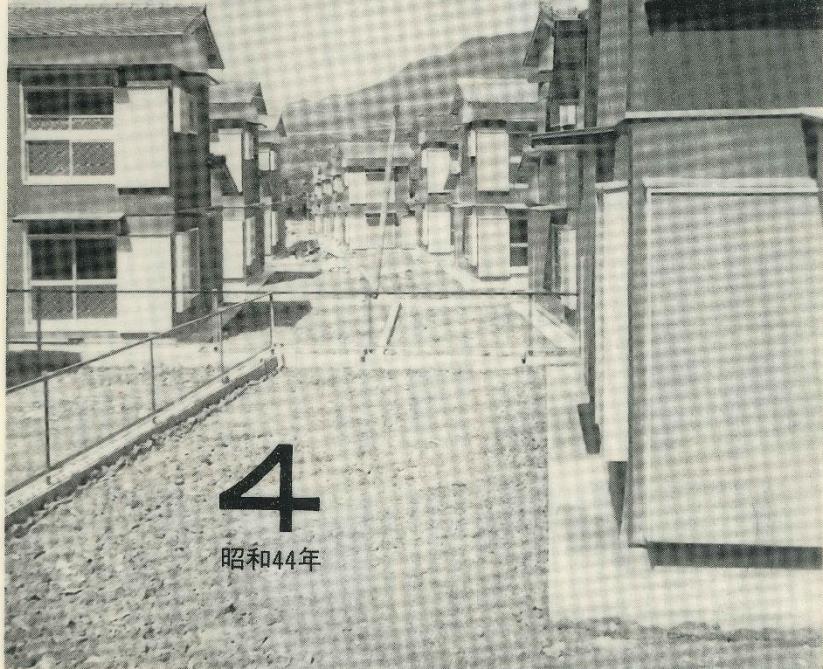
No. 160

■発行所 長崎県西彼杵郡長与町役場 近藤 近 ■編集 企画室 ■毎月1回発行 全世帯配布 ■印刷所 片岡印刷所

崎ノ尾団地 完成まじか

長与駅裏（面積 1.3ヘクタール）に、日本労働者住宅協会が、建設中の団地（約54戸、入居人口約 240人）がほとんど完成しています。

この団地の完成によって、本町には3団地ができ、また各地に宅地造成が進められ、新しい町に変わろうとしています。



崎ノ尾団地 昭和 44(1969) 年 3 月

崎ノ尾団地完成間近。長与町が新しい町として大きく変わり始めたのも昭和 44 (1969) 年の町制施行前後からのことと、これで、町内には百合野 (第一)・西田原、両団地とあわせて 3 つの団地ができ、さらに町内画地に宅地造成の音が大きく響き始めていた。

5 高田郷

50年前(1969.1.1):人口 3,925人 世帯数 985

現在(2019.1.1) :人口 10,591人 世帯数 4,626

北陽台

現在(2019.1.1):人口 1,469人 世帯数 407



長与南小学校建設地 昭和 61(1986)年 10月



長与南小学校 令和元(2019)年 5月

昭和 60(1985)年から約 22 ヘクタールに 508 戸の宅地造成が行われた南陽台団地内に長与南小が建設された (昭和 63(1988)年 4 月開校)。南陽台団地の完成と合わせ、長崎バスの路線がここを通るようになり、一段と都市化が進んだ。



県道大草長崎線改良工事 昭和 45(1970) 年

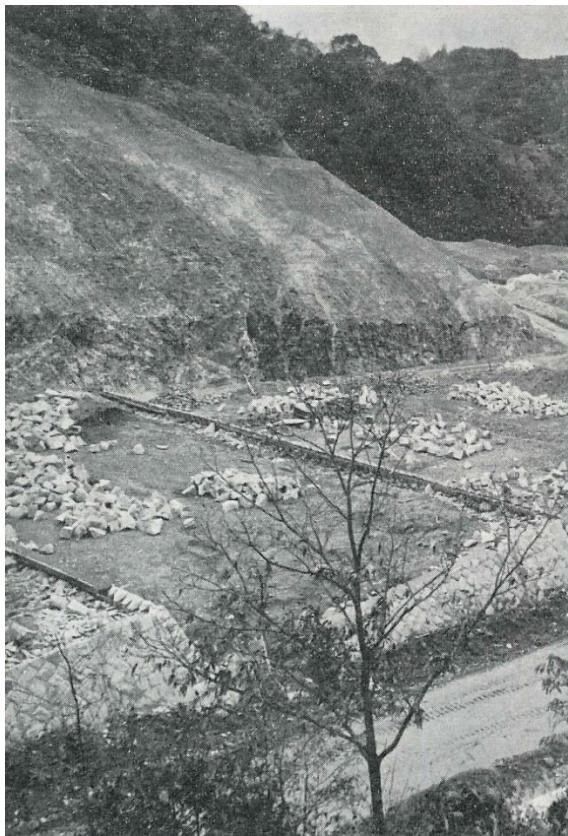


高田駅前 令和元年(2019)年 5月

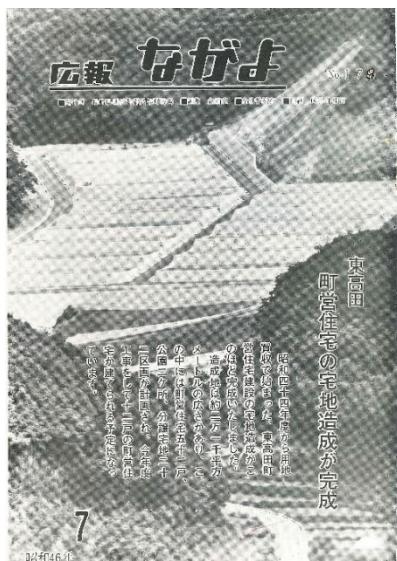
下高田立体交差より道ノ尾方面 340 メートルの工事。立体交差は国体を目前に急ピッチで工事が進められたもの。長与町ではこのころから住み良い環境の町づくりを目指して積極的な工事が進められた。川沿いの景観も、長与川の河川改修工事と県道の改良工事の進展に伴って逐次変わっていく。

JR 高田駅が誕生したのは平成 6(1994)年。

昭和45年度



東高田公営住宅工事 昭和 45 (1970) 年

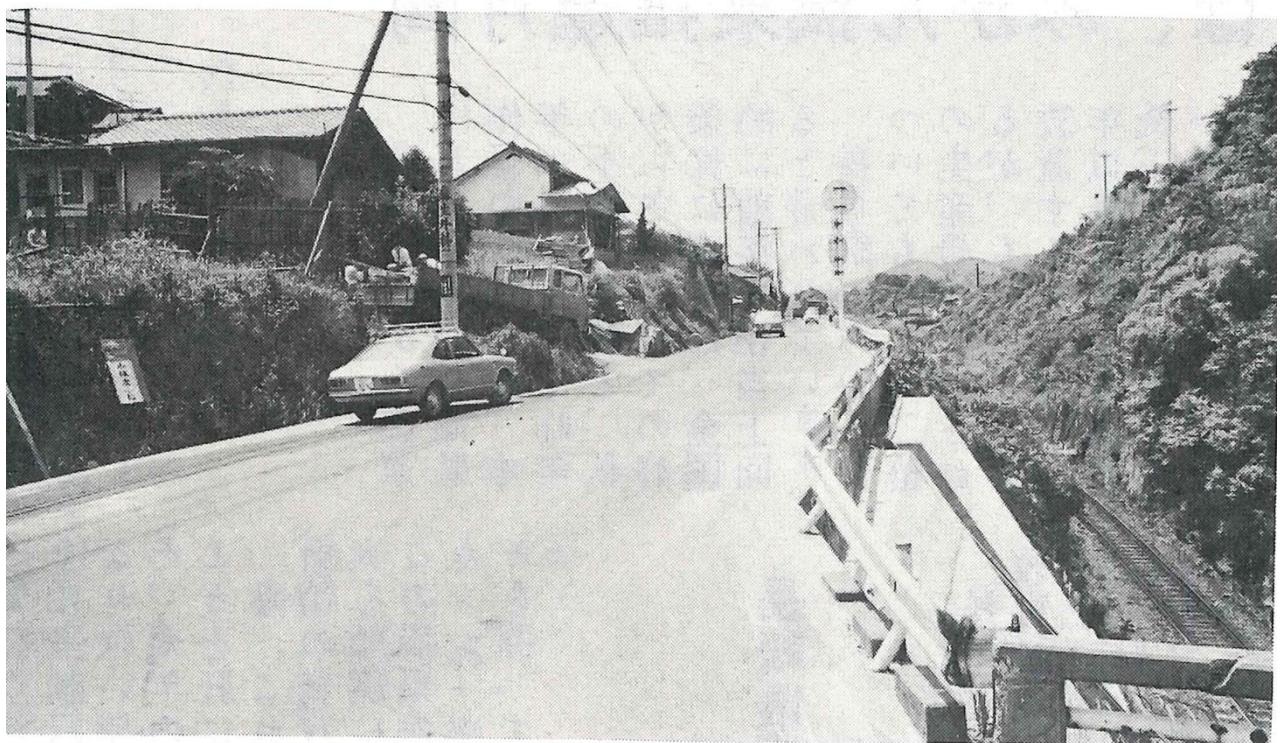


東高田公営住宅工事造成完成 昭和 46 (1971) 年

東高田 令和元 (2019) 年 5 月

昭和 45(1970) 年、公営住宅の建設のため 2 万 1,000 平方メートルの宅地造成が行われた。

昭和 46(1971) 年宅地造成完成。この中に公営住宅 52 戸、公園 2 か所、分譲宅地 22 区画が計画された。(現在東高田公営住宅は 77 戸)



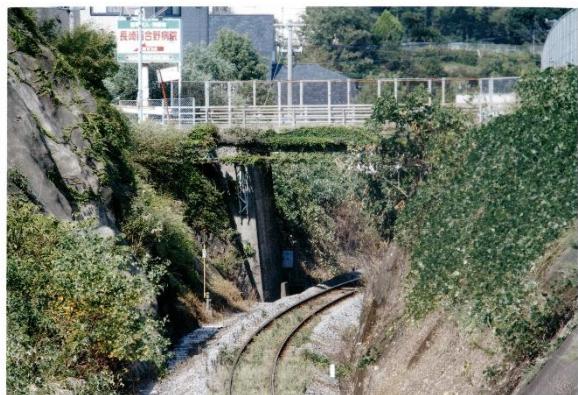
百合野橋より長崎市方面 昭和 47(1972)年



百合野橋 令和元(2019)年 5月



高田越付近長崎本線線路工事 明治 30(1897)年



高田越付近長崎本線 平成 30(2018)年

明治 30(1897)年 7 月 22 日に開業した長崎～長与間鉄道敷設のための工事。



高田越橋架け替え工事前 昭和 52(1977) 年



高田越橋 令和元(2019)年 5月

高田越橋は、明治時代の国鉄開通時に木造で架設され、昭和 7(1932)年に幅員 3 メートルの鉄骨橋になった。高田地区と滑石地区を結ぶ道路として、交通量が激しく、老朽化と人と車の往来に危険を生じていたため、昭和 52(1977)年より架け替え工事が行われ、昭和 53(1978)年に完成している。

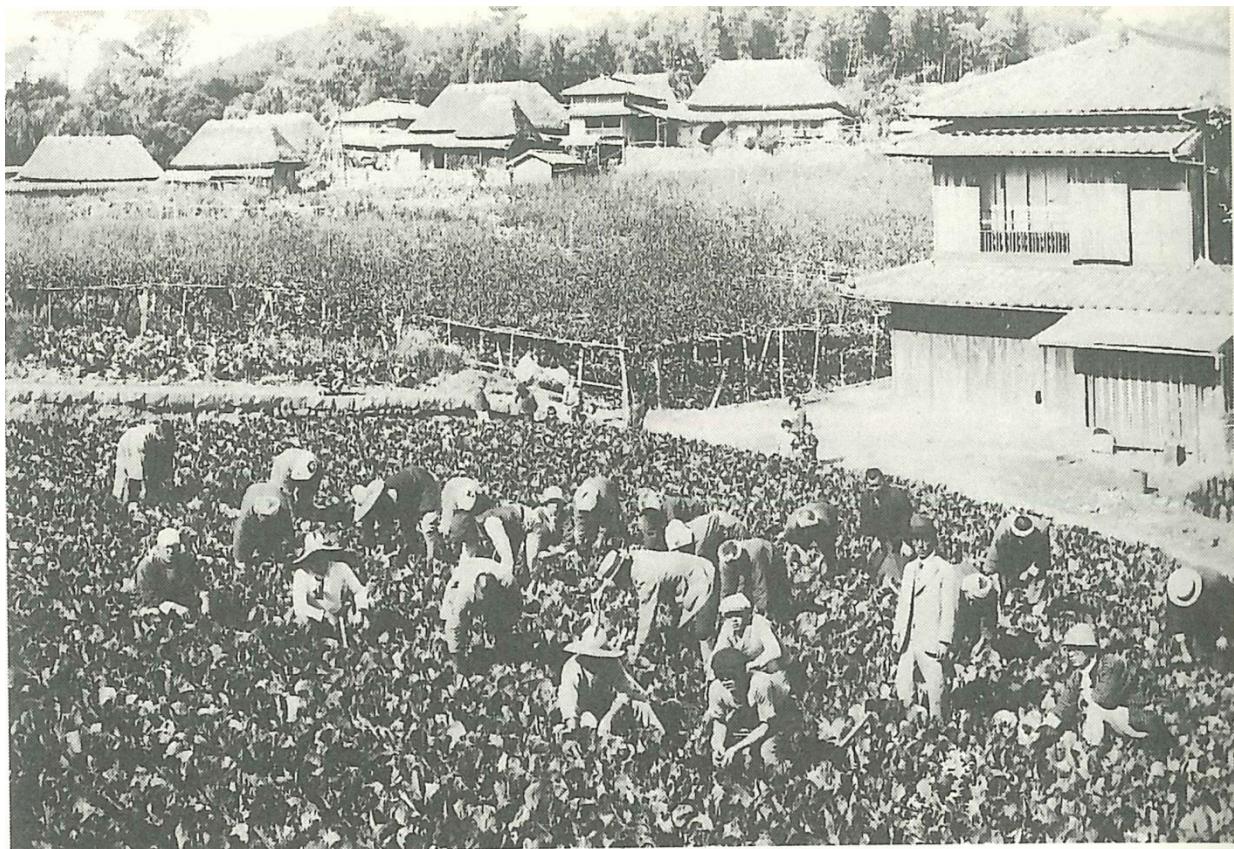


百合野辻田道 昭和 40(1965)年頃



百合野辻田道 令和元年(2019)年5月

現在、右手には辻田白菜発祥の地の建立碑が建つ。



百合野 辻田白菜採種事業 昭和 10 (1935) 年頃



百合野郵便局近く 令和元 (2019) 年 5 月

大正時代より数々の品評会で上位入賞を果たし、大正天皇・皇后両陛下に献上した名誉ある百合野の辻田白菜。百合野の農家は一致して、高く評価された辻田白菜の共同採種栽培に当たり、種子の販売を行った。しかし、第二次世界大戦や、果樹・野菜の多角経営から、みかん単一経営へと経営組織の転換が図られると、白菜部門は次第に縮小。昭和 36 (1961) 年、組合経営による採取事業は終わりを告げた。また、百合野地区の住宅団地化の影響を受け、昭和 48 (1973) 年をもって、辻田白菜の採種は 50 余年の幕を閉じた。

写真右の建物は当時の公民館。現在は商店や飲食店が入る建物がある場所となる。



高田地区コミュニティ運動会(高田小学校にて) 昭和 49(1974) 年

高田地区は昭和 47(1972)年にモデルコミュニティ（望ましい近隣社会づくりのモデル）として自治省（現在の総務省）の認定を受け、以来活発なコミュニティ活動が行われている地域。



道ノ尾駅周辺 昭和 62(1987) 年 3 月



道ノ尾駅周辺 令和元年(2019) 年 5 月



道ノ尾駅 昭和 31(1956) 年 9 月



道ノ尾駅 令和元年(2019)年 5 月



道ノ尾駅 昭和 40(1965) 年代か



道ノ尾駅 令和元年(2019)年 5 月

明治 30(1897) 年 7 月 22 日開業 (上り・下りとも)。

昭和 20 (1945) 年 8 月 9 日の原爆投下時、道ノ尾駅は救援列車の基点として、負傷者を満載して次から次へと諫早・大村方面へと輸送した。また、駅前広場には臨時救護所が設けられ、医師たちによる応急治療が行われるなど大きな役割を果たした。



道ノ尾ホテル 昭和 37(1962) 年頃



道の尾グラウンドより 令和元年(2019)年 5月

昔の道の尾は山間の農村であった。明治の初め頃、古田吉平氏によりラジウム温泉が発見され、これをきっかけに長崎近郊では珍しい温泉旅館、料亭を創業した（現在のファミリーマート道の尾店の裏辺り）。さらに古田氏によって私立の公園施設が開発・造成され、桜の名所となり、長崎方面からの見物客で大いに賑わった（現在は忠靈碑のみ。高田南土地区画整理事業地内）。

写真は道ノ尾ホテル。現在の社会保険長与宿舎付近にあり、昭和 40(1965)年頃まで営業。ホテル裏手にはプールもあった。

長崎市と長与町にまたがる浦上水源地は昭和 20(1945)年に完成。



日当ノ尾採石場 昭和 34 (1959) 年



長崎商業高校付近 令和元年 (2019) 年 5 月

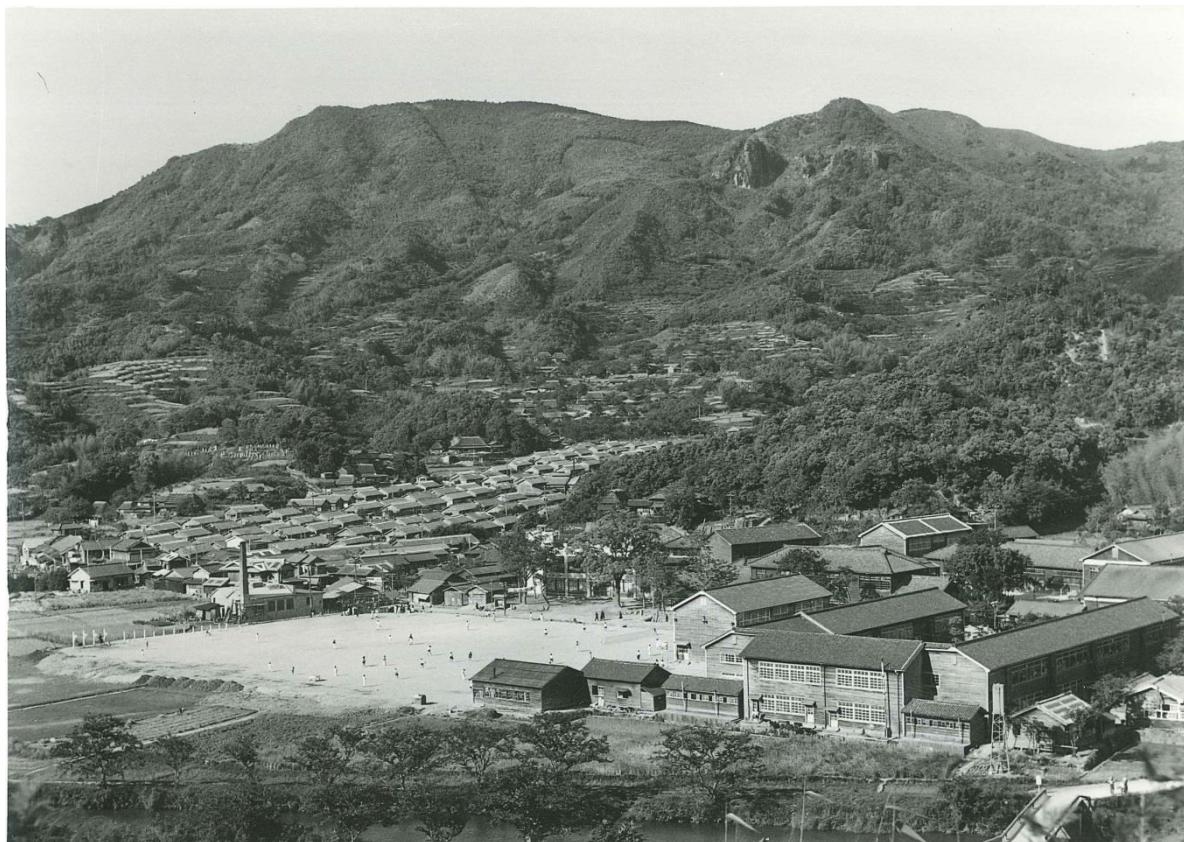
日当ノ尾での採石の様子。当時は地域の住民たちが、自分たちの地域の道づくりのために岩山（石山）から石を運んでいた。

（注）当時の場所がはっきりしていません。

6 丸田郷

50年前(1969.1.1):人口 2,129 人 世帯数 460

現在(2019.1.1) :人口 2,572 人 世帯数 1,004



長与中学校・旧丸田社宅(住民提供) 昭和 35(1960)年



旧丸田社宅 昭和 35(1960)年



長与小学校・長与町役場 令和元(2019)年 5月

奥に見える団地が旧丸田社宅（現在の三菱アパート）、右手前が長与中学校、右奥が長与小学校、中央が長与村役場。

以前、長与中学校は現在の役場庁舎の場所にあった。また、現在図書館として使用されている建物は、以前は役場庁舎として使われていた。



旧丸田社宅 昭和 35(1960)年



丸田アパート 令和元(2019)年 5月

太平洋戦争たけなわの昭和 17(1942)年、軍需工場に多数の労働力を必要としたが、長崎市内だけでは増加する従業者の住居確保が困難であり、郊外に住宅の適地を探していた三菱造船所が丸田に社宅を造った。最初の入居は昭和 18(1943)年 10 月、下方に住み込み、その後次第に上方へと建築が進んだ。軒数 256 軒、279 世帯、入居者数 1349 人（昭和 23(1948)年 4 月編『長与村郷土史』による）。これが今日の大規模住宅団地のはじめであった。

長与の簡易水道は、昭和 38(1963)年から丸田社宅を皮切りに給水を開始した。



丸田二反田 昭和 40(1965) 年代



丸田二反田(丸田アパート 7 棟前) 令和元(2019)年 5 月

7 嬉里郷

50年前(1969.1.1):人口 1,254人 世帯数 297

現在(2019.1.1) :人口 5,525人 世帯数 2,389

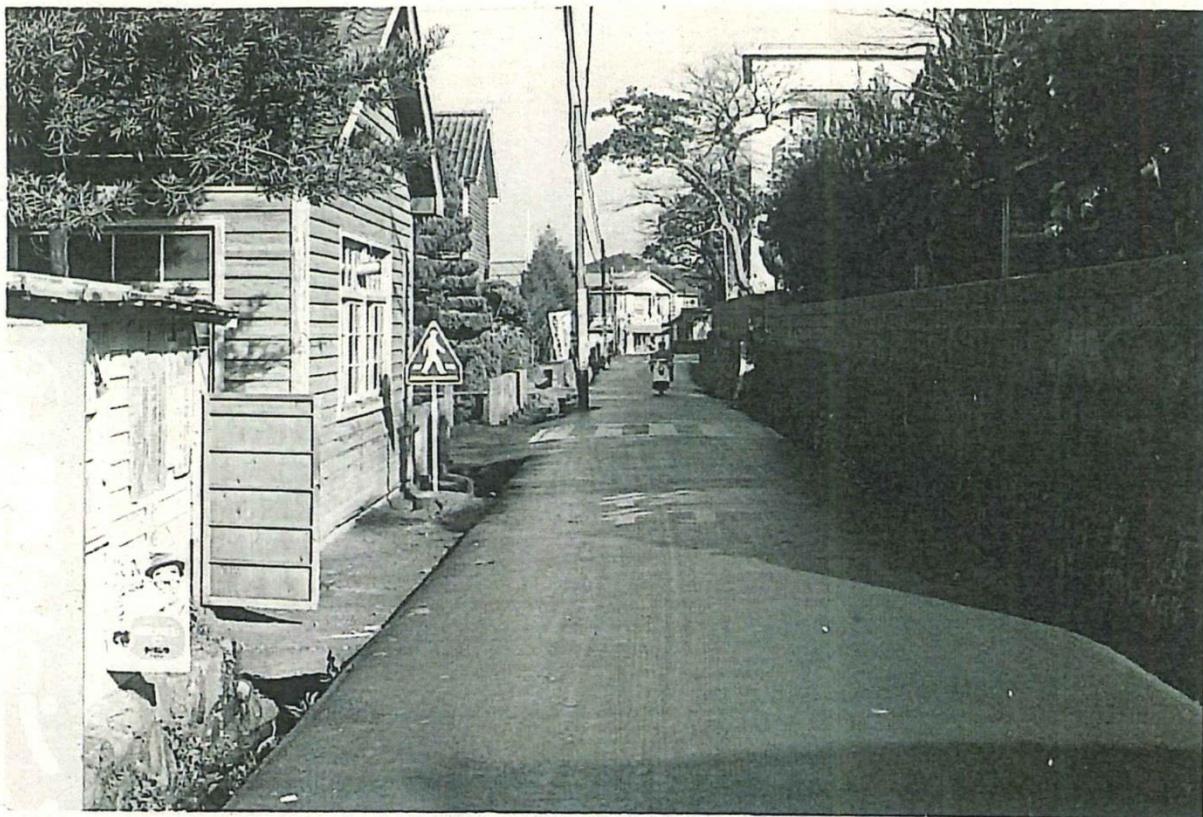


造成前の西田原団地 昭和 30(1955) 年代



西田原団地 令和元(2019)年 5月

ビュー・テラス北陽台の山から現在の西田原団地を撮影した写真。左奥に見えるのは法妙寺。昭和 49(1974)年から長与西部土地区画整理事業が行われ、西田原団地ができた。



役場前通り 昭和 40 年 (1965) 年代



役場前通り 令和元年 (2019) 年 5 月

終戦後、長与村に待望のバス乗り入れが実現したのは昭和 28 (1953) 年 3 月であり、長崎バスが道の尾～寺の下間 4.6 キロと、船津橋～一本松 3.3 キロの区間を運行した。最初の頃しばらくは、榎の鼻から旧役場庁舎（現在の図書館）前を通り、長沢医院前を通過、定林橋を渡り、岩淵神社前より船津橋を渡り、岡方向へ運行していた。その間道路幅が狭く、軒端すれすれの通過で、よちよち運転の状態であった。

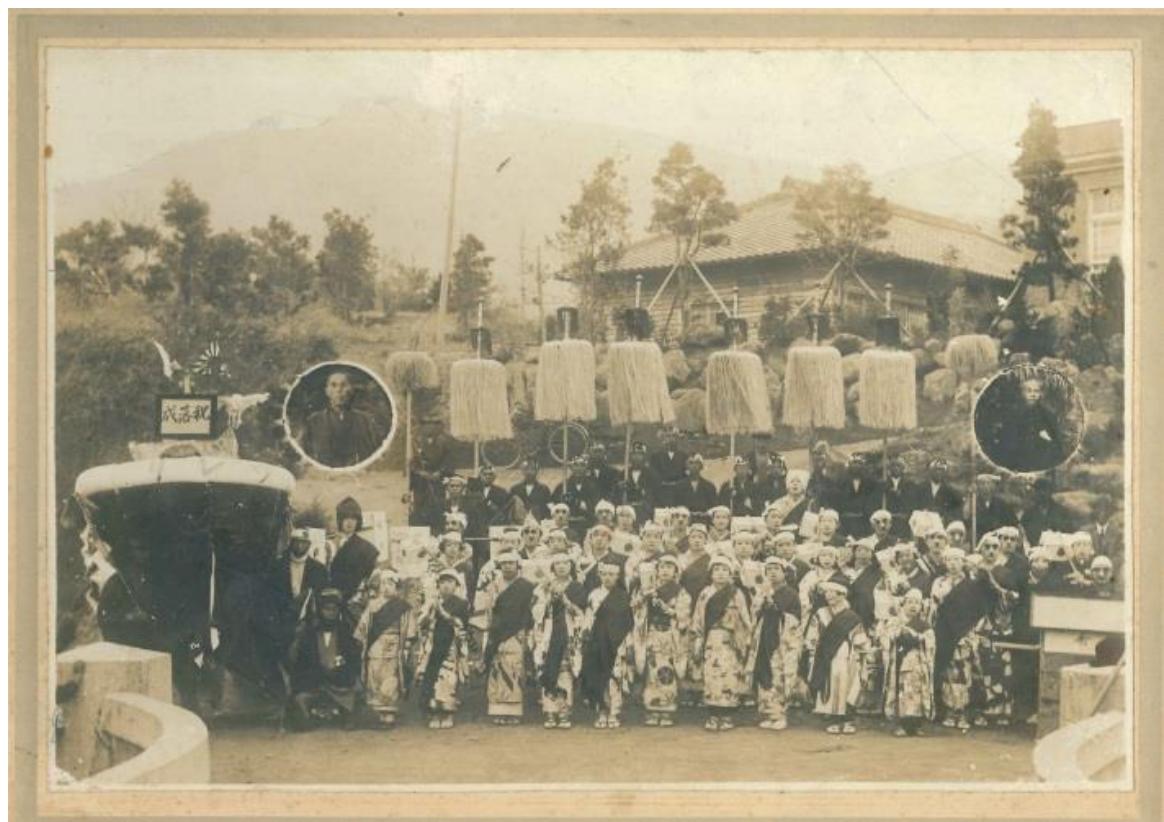


長与小学校全景(住民提供) 昭和 11(1936)年 10月



長与小学校グラウンド 令和元(2019)年 5月

明治 6(1931)年、法妙寺を仮校舎として新しい教育が発足し、翌明治 7(1932)年に旧庄屋跡すなわち現在の長与小学校の場所にあった家屋を校舎として、「長崎県彼杵郡・長与村長与小学校が誕生した。



長与小学校落成祝い(住民提供) 昭和 11(1936)年

昭和 11(1936)年に講堂・南校舎 2 階建てを新築し、その落成祝い。



長与中学校(住民提供) 昭和 11(1936) 年



長与町役場・長与町水道局 令和元(2019)年 5月

以前は現在の役場庁舎の場所に長与中学校が建っており、昭和 52(1977)年に丸田郷に移転した。

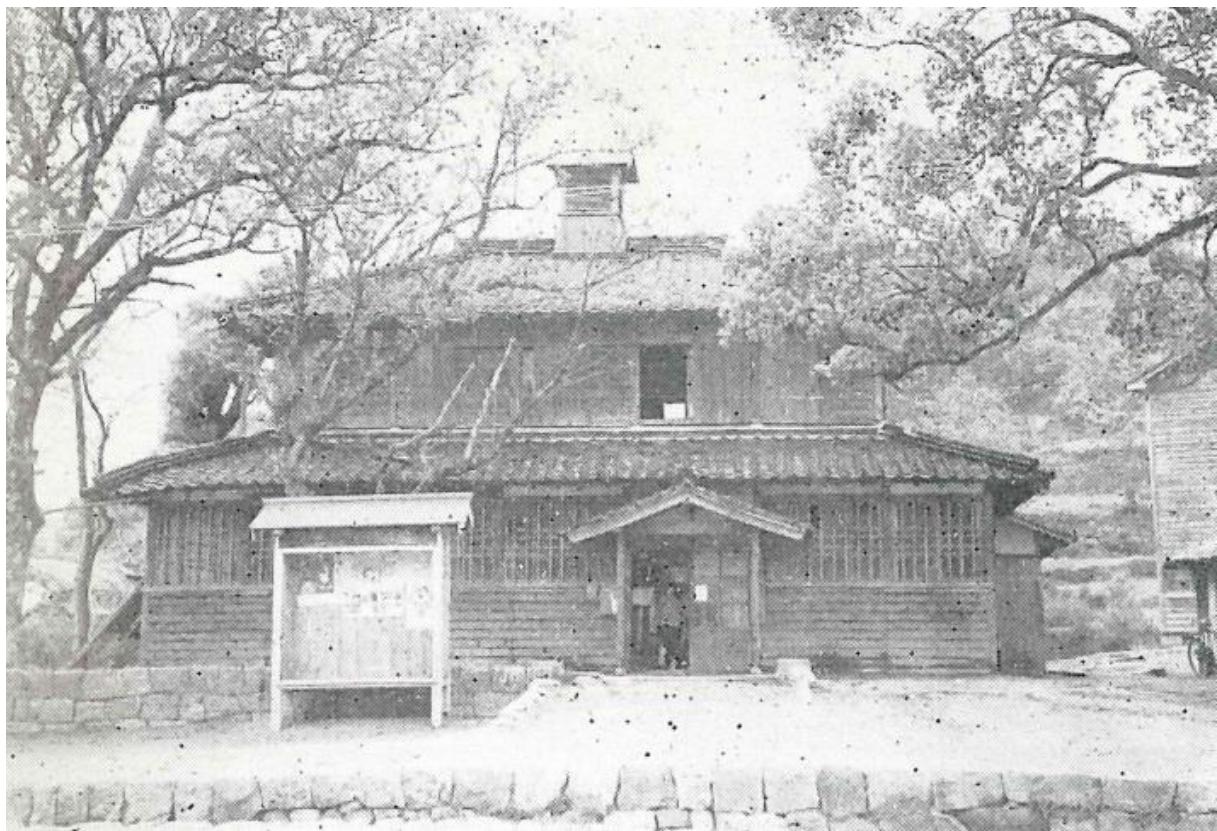
昭和 24(1949)年～昭和 54(1979)年の 30 年間、長与中学校に県立長崎西高等学校長与分校（定時制高校）が併設されていた。男子 624 名、女子 66 名、計 690 名の卒業生を世に送り出した。



現長与町公民館道路 昭和 47 (1972) 年



現長与町公民館道路 令和元 (2019) 年 5 月



明治 40 年落成の長与村役場

明治 22(1889)年 4 月から村制を施行した長与村。区域を斎藤郷・岡郷・嬉里郷・高田郷・吉無田郷・丸田郷・三根郷・平木場郷・本川内郷の 9 郷に分割、村役場を嬉里郷 636 番地に定めた。当時の人口は 5 千数百人。



長与村役場新庁舎 昭和 33(1958)年



長与村役場新庁舎 昭和 40年(1965)年頃



現長与町図書館 令和元(2019)年5月

昭和 33(1958)年、長与村役場新庁舎完成。9月14日、落成の式典が長与小学校講堂で行われ、午後は長与中学校の校庭で各郷よりそれぞれ郷土民芸が披露され、村民の祝福と歓喜のうちに盛大に行われた。

昭和 49(1974)年には 3 階増築工事が行われ、その後何度か増築が行われて、現在の姿になっている。

昭和 63(1988)年、現庁舎の落成に伴い、平成元(1989)年より、長与町図書館として利用されている。



長与町町制施行 昭和 44 (1969) 年 1 月



長崎国体 昭和 44 年 10 月

昭和 44 (1969) 年 1 月 1 日、長与は町制を施行、ここに新しく、人口約 1 万 3 千人の長与町が誕生した。

長与が町制を施行したのち、町をあげて最初に取り組んだ大きな仕事は、長崎国体の完遂であり、これに関連した環境の整備であった。昭和 44 年 10 月 26 日から 31 日まで長崎国体が開催され、長与町は一般女子ソフトボールの競技会場となり熱戦が繰り広げられた。



昔の中央商店街(三菱グラウンド付近) 昭和 47(1972)年



長与小学校から三菱グラウンドまでの通り 令和元年(2019)年 5月

当時町内の中央商店街といえば、丸田社宅からも近いこの場所であった。



昔の中央商店街(三菱グラウンド付近) 昭和 47(1972) 年



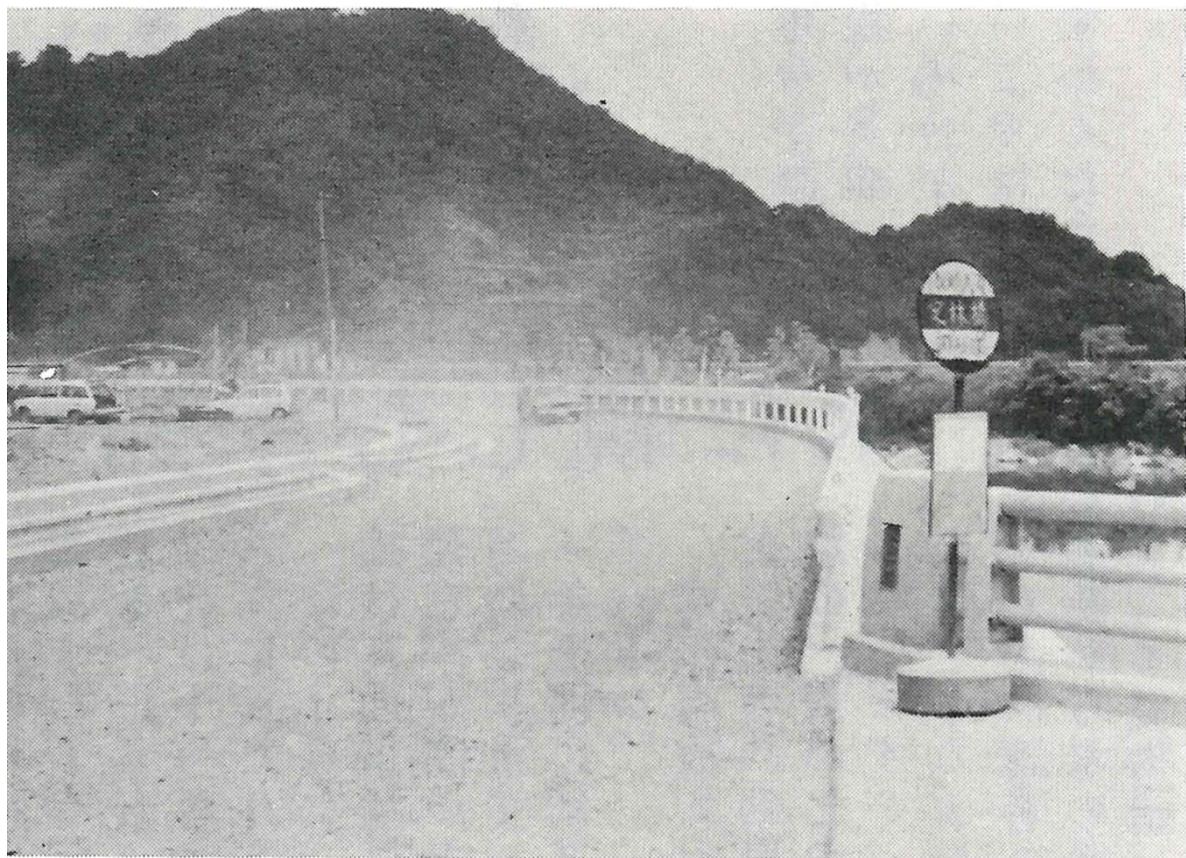
三菱グラウンド 令和元(2019)年 5月



昔の中央商店街(三菱グラウンド付近) 昭和 47(1972)年



三菱グラウンド前 令和元(2019)年 5月



定林橋 昭和 47 (1972) 年



定林橋 令和元年 (2019) 年 5 月



氷取地区 昭和 34(1959) 年 6 月

現在のじげもん裏、氷取西公園の辺り。今は住宅やアパートが立ち並び、遠くの山も隠れてしまう。

長与川河川改良工事

工費 9,100 万円で、寺の下から上流にむかって 540 メートルが拡幅改良されます。
これによって県道も新しく幅員 7 メートルに改良されます。



長与川河川改良工事 昭和 46(1971) 年



寺の下 令和元年(2019)年 5月

昭和 46(1971) 年、寺の下から上流に向かって 540 メートルの拡幅改良工事が行われた。

8 齊藤郷

50年前(1969.1.1):人口 829人 世帯数 170
現在(2019.1.1) :人口 759人 世帯数 302



三彩橋時津側 昭和 53(1978)年



三彩橋時津側 令和元(2019)年 5月

昭和 53(1978)年三彩橋完成。



寺の下 昭和 46(1971)年



岩渕神社付近 令和元年(2019)年 5月

長与川の改修工事は、昭和 35 (1960) 年から施行され、改修工事が完成し竣工式が行われたのは平成 5 (1993) 年 3 月 25 日である。工事完成までには実に 34 年の歳月を要したが、昔と現在ではすっかり生まれ変わった川になった。

写真は長与川の改良工事とあわせて県道の改良工事が行われている。昭和 46(1971)年度には寺の下から定林橋までの改良工事が行われた。



ぎおんさん 昭和 47(1972)年 7月



三彩橋交差点 令和元年(2019)年 5月

ぎおんさんは、夏のはやり病にからないようにといいう願いから、寛永4（1627）年法妙寺創建のときに始まったと伝えられている。町内7つの地区が毎年交代で法妙寺から祇園堂まで「おくだり」の行列をつとめる。魔ばらいの鉾（ほこ）を先頭に、傘鉾、吹き流し旗と神輿行列が続く。



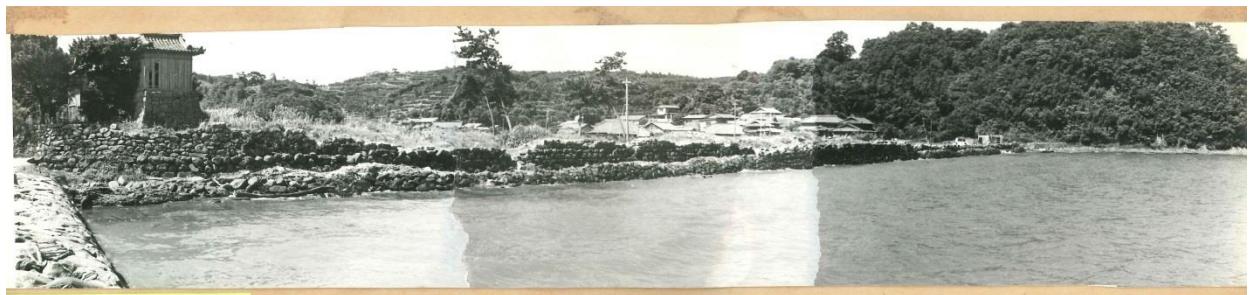
齐藤海岸通 昭和 42(1967)年



齐藤海岸通 令和元(2019)年 5月

宅地化される前の長与は長与川沿いに田んぼが広がっており、地理的に恵まれ、米の生産高も高かった。

現在の写真の北小学校（左奥）は昭和 55(1980)年開校。それまでは、長与小学校岡分校として、現在の満永公園にあった。

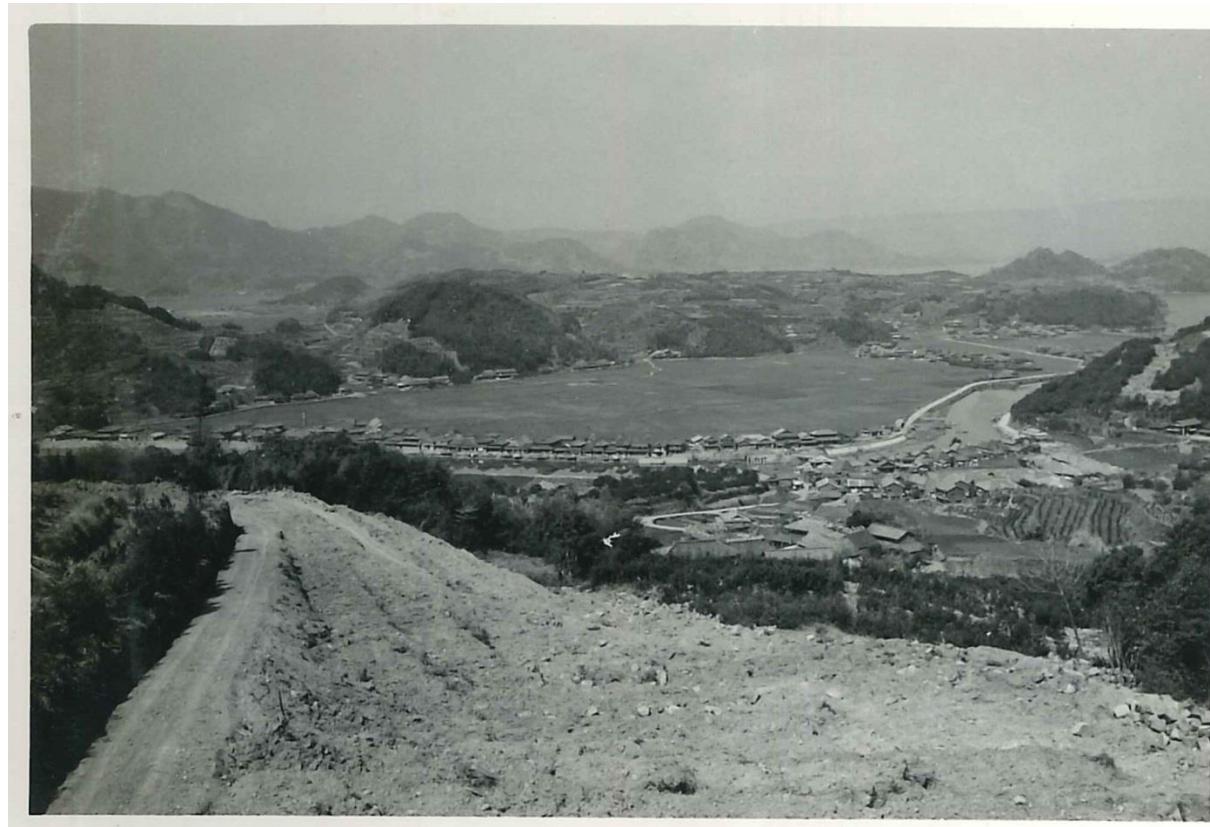


齊藤海岸 昭和 47 (1972) 年 7 月

9 岡郷

50年前(1969.1.1):人口 1,704人 世帯数 324

現在(2019.1.1) :人口 3,872人 世帯数 1,559



佐敷川内 昭和 40(1965) 年代



佐敷川内 令和元(2019)年 5月

斎藤・岡方面の景色。



佐敷川内より舟津、氷取方面 昭和 25 (1950) 年



佐敷川内より舟津、氷取方面 令和元 (2019) 年 5 月

長崎～長与間の鉄道開通当時（明治 30（1897）年）は、松ノ頭トンネルが完成していなかったため、長崎を出発した乗客は、長与駅で下車し、そこから人力車で舟津の船着場へ直行し、蒸気船で大村・早岐・川棚へ渡り、汽車に乗り換えていた。長崎線全線開通までの 1 年余りの短い期間ではあったが、長与駅～舟津間は、人力車が賑やかに行き交い、舟津には、宿屋、飲食店、車立場などができる、長与で最も繁華な場所となった。舟津の家並みにその面影をみるとができる。



岡郷 昭和 34 (1959) 年 6 月



岡郷 令和元 (2019) 年 5 月



大村湾を望む(住民提供) 昭和 49(1974) 年 1 月



満永 令和元(2019) 年 5 月

長与浦埋立前の写真。

かつて大村湾では真珠養殖が盛んであり、長与町内でも 3 軒が大村湾において真珠養殖を行っていた。長与町内で真珠養殖を行っているところがなくなり 10~15 年が経つ。



満永白髭神社前(住民提供) 昭和 49(1974) 年 1 月

埋立前の長与港。満永の白髭神社（つどいの家横）の前には堤防があった。



長与浦 昭和 40(1965) 年代



長与浦埋立 昭和 59(1984) 年 12 月



長与浦 令和元(2019) 年 5 月

昭和 51(1976) 年から長与浦の海面埋立が開始され、10 年余りの期間を要し、21 万 9 千平方メートルに近い広場が出現。町の北部海辺は目を見はる程の変貌を遂げた。昭和 62(1987) 年にふれあい広場、長与総合公園運動広場がオープン。平成 5(1993) 年に町民体育館が完成した。



岡郷大堂川地区 昭和 48(1973) 年



岡郷大堂川地区 令和元(2019)年 5月

長与町の農業はみかんを中心に栄えてきたが、都市化の進展による農地の宅地化が進み、耕地面積、農家戸数とも減少する中、特に温州みかんは生産過剰による園地の廃園、転換が目立ち、昭和 45(1970)年に 788 戸の農家戸数だったのが、平成 27(2015)年では 293 戸となっている。(温州みかんの栽培農家数：1970 年世界農林業センサス・2015 年農林業センサス)

平成 13(2001)年にオープンした潮井崎交流館の場所は、以前、し尿処理施設であった。